

和光市男女共同参画意識調査報告書
(概要版)

平成 18 年 3 月
和 光 市

目 次

I. 調査の概要	1
II. 調査結果の概要	3
III. 調査結果の分析	9
◇回答者の属性	9
◇家庭生活について	10
◇社会参加について	13
◇配偶者や恋人からの暴力について	14
◇仕事について	16
◇男女共同参画に関する意識や取組について	21
IV. 自由意見一覧	24

Ⅰ. 調査の概要

1. 調査の目的

和光市男女共同参画推進条例の施行(平成 17 年 4 月 1 日)に伴って、男女共同参画わこうプランを見直すにあたり、市民における男女共同参画に関わる意識・意向と実態を把握することを目的に調査を実施することとした。

2. 調査設計と回収状況

- (1) 調査地域：和光市全域
- (2) 調査対象：和光市在住の 20 歳以上の男女 2,000 人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳より単純無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送配布・郵送回収、督促状 1 回
- (5) 調査時期：平成 17 年 6 月 23 日(木)～7 月 22 日(金)
- (6) 回収状況：標本数・・・2,000
有効回収数・・・818 (40.9%)

3. 調査項目

	問 No	質問内容
属性	F	基本属性 (性別、年齢、居住年数、家族構成、末子の年齢、婚姻の有無、就労状況)
家庭生活 について	問 1	家庭生活における自立度
	問 2	家庭生活における役割分担
	問 3	平日や休日に家事にかかわる時間
	問 4	男性が女性とともに、家事・子育て・介護に参加していくために必要なこと
	問 5	少子化が深刻化している理由
	問 6	子どもをすこやかに育てるために、市・県・国に期待すること
社会参加 について	問 7	社会参加についての活動状況と参加意向
	問 8	自治会等の役職、議員、行政委員における女性の割合が低い理由
	問 9	男女の不平等を改善するために効果的と思う積極的改善措置
配偶者や 恋人から の暴力に ついて	問 10	夫婦や恋人間での暴力行為に対する認知度
	問 11	配偶者や恋人から受けた行為
仕事につ いて	問 12	就業状況
	問 13	自身の職場であてはまるもの
	問 14	女性が働き続けるのに必要なこと

	問 No	質問内容
	問 15	育児休業制度や介護休業制度利用への抵抗感
	問 16	女性の働き方について
	問 17	現在仕事をしていない理由
男女共同 参画に関 する意識 や取組に ついて	問 18	各分野における男女の地位の平等性
	問 19	家庭生活等における考え方
	問 20	性別固定的役割分担意識
	問 21	女性の人権が尊重されていないと感じるとき
	問 22	テレビ、新聞、雑誌等のメディアにおける性・暴力表現について感じていること
	問 23	男女共同参画推進に対する取り組みで知っているもの
	問 24	男女共同参画推進のために重点的に進めたらよいと思う施策
	問 25	重要だと考える取り組み

4. 調査結果の見方

- (1) 調査結果の数値は、「回答率 (%)」で示している。「%」の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数は「n」もしくは「サンプル数」であらわしている。
- (2) 「%」の数値は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示している。このため、各回答の数値の合計が、必ずしも100%とならない場合がある。
- (3) 回答は、「単数回答 (○は1つだけ)」と「複数回答 (あてはまるものに○等)」の2種類がある。このため、各回答の数値の合計が必ずしも100%とならない場合がある。
- (4) 図表やコメント部分での回答の選択肢は、簡略化して表現している場合がある。

II. 調査結果の概要

1. 家庭生活について

(1) 家庭生活における自立度

男性は生活に関する技術の面に不安があり、女性は生計の面で不安がある

家庭生活における自立度について、「食事の支度」、「食事の後片付け」、「掃除」、「洗濯」、「食料品や日用品の買い物」は、9割以上の女性ができると回答している。一方、男性は6～7割程度となっている。また、「住居の確保」「生活費の確保」について、男性は7～8割ができると回答しているが、女性は半数程度にとどまっている（問1）。

(2) 家庭生活における役割分担

「食事の支度」、「食事の後片付け」、「掃除」、「洗濯」、「食料品や日用品の買い物」は8～9割が妻の役割

家庭生活における役割分担について、「ごみ出し」は掃除等の家事に比べて、男性の分担が増える傾向にあるが、「育児・子どもの世話や教育」については、「あなたと配偶者が同じぐらいに」と回答した人は14.3%にとどまっている。また、「重大事項の決定」については、「あなたと配偶者が同じぐらいに」と回答した人は、全体で44.3%となっているが、男性の役割と回答した人は、女性で38.5%、男性で50.8%となっている（問2）。

(3) 平日や休日に家事にかかわる時間

男性は平日で1時間未満が76.0%、休日でも3時間未満が78.5%

平日や休日に家事にかかわる時間について、平日・休日ともに「8時間以上」と回答した人は30歳代女性で約半数を占めている（問3）。一方、男性はほとんど家事等にかかわることがないという実態がみられる。

(4) 男性が家事・子育て・介護に参加していくために必要なこと

企業が男女共に仕事と家庭を両立できる環境を整える

男性が家事・子育て・介護に参加していくために必要なことについて、「企業が男女共に仕事と家庭を両立できる環境を整える」と回答した人は最も多く、男性20～40歳代では「労働時間を短縮する」と回答した人が4割程度みられる（問4）。

(5) 少子化が深刻化している理由と子どもを育てるために市・県・国に期待すること

子育てに伴う経済的負担の軽減が必要

少子化が深刻化している理由について、「子育ての経済的負担が大きいから」と回答した人は、74.6%と最も多くなっている（問5）。また、子どもをすこやかに育てるために市・県・国に期待することについて、「子育てに伴う経済的負担の軽減」と回答した人は55.9%となっている（問6）。

2. 社会参加について

(1) 社会活動の参加実態と今後の参加意向

現在、社会活動に参加している人は58.3%、今後参加してみたい人は66.9%

過去3年間に参加した社会活動について、「参加していない」、「無回答」と回答した人を除くと58.3%の人は何らかの活動に参加していることがわかる。参加した活動の中では、「自治会や町内会、商店街等の地域活動」、「趣味やスポーツの活動」が多い。

一方、今後参加してみたい社会活動については、「趣味やスポーツの活動」と回答した人は最も多く、次いで「自治会や町内会、商店街等の地域活動」、「地域の仲間が集って行う勉強会や研究会」の順となっている。また、「参加したいと思わない」、「無回答」と回答した人を除く66.9%の人は何らかの活動に参加したいと回答している（問7）。

(2) 自治会等の役職、議員、行政委員における女性の割合が低い理由とその改善措置

男性がなる方が良いと思っている人が多いから

自治会等の役職、議員、行政委員における女性の割合が低い理由について、「男性がなる方が良いと思っている人が多いから」と回答した人は最も多く、次いで「女性の登用に対する認識や理解が足りない」、「女性自身が役職に対する関心がない」の順となっている（問8）。また、改善するために効果的と考える措置については、「不足する人材を育成するための研修を行う」が最も多く、次いで「審議会委員等の登用割合の目標数値を設定し努力する」となっている（問9）。

3. 配偶者や恋人からの暴力について

(1) ドメスティック・バイオレンスをめぐる実態

ドメスティック・バイオレンスを受けても相談していない人が多い

命の危険を感じるほどの暴力や医師の治療が必要なほどの暴力を受けている人のすべてが女性

ドメスティック・バイオレンスの認知度について、「殴る、蹴る、物を投げつける、突き飛ばす等身体的暴行」で 13.3%、「自分、家族に危害を加えられると恐怖を感じる脅迫」で 15.7%、「性的な行為の強要」で 28.6%の人が「暴力の場合とそうでない場合がある」、「暴力にあたるとは思わない」と回答している。また、「身体的暴行」で 13.3%、「精神的暴行」で 15.7%、「性的暴行」で 28.6%の人が、それらの行為を暴力であると認識していない（問 10）。

ドメスティック・バイオレンスを受けた経験については、291 人（35.6%）が何らかの暴力行為を受けたことがあると回答している（問 11）。また、命の危険を感じるほどの暴力や医師の治療が必要なほどの暴力について、全回答者 818 人のうち 4.3%（21 人）がこれらの暴力を受けており、被害を受けているのは、すべて女性である（問 11）。

さらに、ドメスティック・バイオレンスを受けたときの状況について、子どもが見ていたと回答した人は、37.1%であり（問 11-1）、うち、暴力行為を受けたことについて「相談できなかった」、「相談しようとは思わなかった」と回答した人は 70.1%にのぼる（問 11-2）。相談しなかった理由としては、「相談するほどのことではないと思った」、「自分にも悪いところがあった」と多い（問 11-4）。一方、相談したと回答した人の相談先は「友人・知人」、「家族・親せき」が多く、「市役所の相談窓口」、「民間・県・国等の電話相談」などの公的機関はほとんど利用されていない（問 11-3）。

4. 就労について

(1) 就業状況

女性の就労状況は、30 歳代を谷とするいわゆる「M字曲線」を描いている

女性の就業状況について、30 歳代を谷とするいわゆる「M字曲線」を描く就労傾向がみられる（問 12）が、前回調査と比較するとM字の谷は少し浅くなっている。

職場での立場をみると、「事業主・経営責任者」、「会社等の役員」、「役員以外の管理職（部長・課長）」に就いている割合は 40 歳代以上の男性が多い（問 12-1）。

職場の実態としては、「お茶くみや雑用は主に女性がする」、「男性は育児・介護休業を取得できない、取得しにくい」、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」と回答した人が多い（問 13）。

また、女性が働き続けるのに必要なこととして、「保育サービスを充実する」と回答した人が最も多く、次いで「育児等のため退職した人の再雇用制度を導入する」、「代替要員確保等育児・介護休業を取得できる環境を作る」の順となっている（問 14）。

(2) 育児休業や介護休業を取得することへの抵抗感

介護休業を取得することには抵抗がない人が多いが、育児休業については男性が取得することへの抵抗感が強い

育児休業を男性が取得することについて、男性で48.8%、女性で29.9%の人が抵抗感(「多少抵抗がある」、「かなり抵抗がある」)と回答しているが、女性が取得することについては、男女ともそれほど抵抗感はない。

また、介護休業を取得することについては、男女ともに抵抗がない(「全く抵抗がない」、「抵抗がない」)と回答した人が多い(問15)。

(3) 女性の就業についての意識

中断再就職型を理想とする人が37.5%

女性の就業についての意識では、母親の働き方は「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(いた)」と回答した人は最も多いが、一般的に望ましい働き方については、「子育て中は一時やめパートで仕事を続けている(いた)」が最も多く、次いで「子育て中は一時やめ、フルで仕事を続けている(いた)」となっており、いわゆる「中断再就職型」と回答した人が37.5%となっている(問16)。

(4) 今後の就労意向・働くにあたって身につける必要性を感じていることやほしい支援

20~30歳代女性の就労意向が高い

現在、就労していない理由について、女性20~40歳代では「育児の負担が大きい」、「家事の負担が大きい」と回答した人が多く、60歳代以上になると、男女とも「高齢だから」と回答した人が多い(問17)。

また、今後の就労意向については、女性20~30歳代で「働きたい」と回答した人が8割程度を占め(問17-1)、希望する就労形態としては「パート・アルバイト」と回答した人が多い(問17-2)。

さらに、働くにあたって身につける必要性を感じていることやほしい支援については、「就業あっせん情報」と回答した人が最も多く、次いで「パソコン操作の技能習得」、「専門的な資格等の取得」の順となっている(問17-3)。

5. 男女共同参画に関する意識や取組について

(1) 各分野における男女の地位の平等性

社会全体で「男女の地位が平等になっている」と回答した人は 12.5%

各分野で「男女の地位は平等になっている」と回答した人が半数を超えたのは「学校」だけである。「社会全体」については、12.5%となっている（問 18）。

(2) 家庭生活等に対する考え方

男性の家事参画に対する意識の高まりが見られる

「結婚したら、家族を養うのが男性の責任である」という考え方について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人は 69.3%となっている。また、「結婚したら、家事全般を行うのは女性の役割だ」という考え方については、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」が 51.0%となっており、男性の家事参画に対する意識の高まりが見られる（問 19）。

(3) 性別による固定的な役割分担意識

多くの人が固定的な男女の役割分担には否定的

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について否定的な人は、55.6%となっている。また、「家庭内では妻と夫は対等に話し合うべき」、「やさしい男の子やたくましい女の子がいてもいい」、「妊娠・出産は女性自身の負担が大きいのので、女性の意見を尊重した方がよい」、「電話ボックスや街中の壁の風俗広告は規制すべき」という考え方については、それぞれの考え方に肯定的な意見が多く、固定的な男女の役割分担に否定的であることがわかる（問 20）。

(4) 女性の人権が尊重されていないと感じるとき

「レイプ（強姦）等の女性への性暴力」が 74.9%

女性の人権が尊重されていないと感じるときについて、「レイプ（強姦）等の女性への性暴力」と回答した人は最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメント」、「夫や恋人等からの暴力」の順となっている（問 21）。

(5) テレビ、新聞、雑誌等のメディアにおける性・暴力表現について感じること

「暴力シーンを流すことは犯罪を助長するおそれがある」が 65.8%

テレビ、新聞、雑誌等のメディアにおける性・暴力表現について、「暴力シーンを流すことは犯罪を助長するおそれがある」と回答した人は最も多く、次いで「望まない人や子どもの目に触れないような配慮が不足」、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」の順となっている。また、「女性や男性のイメージについて固定的な表現をしている」と回答した人は 24.4%となっている（問 22）。

(6) 男女共同参画推進に対する取り組みで知っているもの

「どれも知らない」が 22.0%

男女共同参画推進に対する取り組みで知っているものについて、最も認知度が高いのは「育児・介護休業法」で 47.7%、次いで「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」、「改正雇用機会均等法」の順となっており、4 割程度の人が認知している。その一方、「どれも知らない」と回答した人は 22.0%となっている（問 23）。

(7) 男女共同参画推進のために重点的に進めたらよいと思う施策

年代によって重要だと思う施策は異なる

男女共同参画推進のために重点的に進めたらよいと思う施策について、「子育て支援の充実」と回答した人は 56.8%と最も多く、次いで「高齢者施策の充実」、「就労の場における男女共同参画の推進」の順となっている。また、女性 20～30 歳代では「子育て支援の充実」と回答した割合が高く、50 歳代以上の男女では「高齢者施策の充実」と回答した割合が高くなっており、年代によって重要だと思う施策が異なっていることがわかる（問 24）。

(8) 重要だと思う取り組み

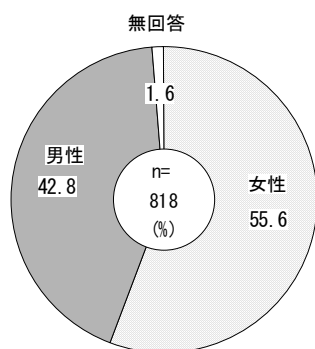
「男女共同参画に関する情報提供」が 45.0%

重要だと思う取り組みについて、「男女共同参画に関する情報提供」と回答した人は、45.0%と最も多く、次いで「就職・起業講座等による女性の就労支援」、「女性相談窓口の機能の充実」の順となっている。

III 調査結果の分析

◇回答者の属性

F 1 【性別】

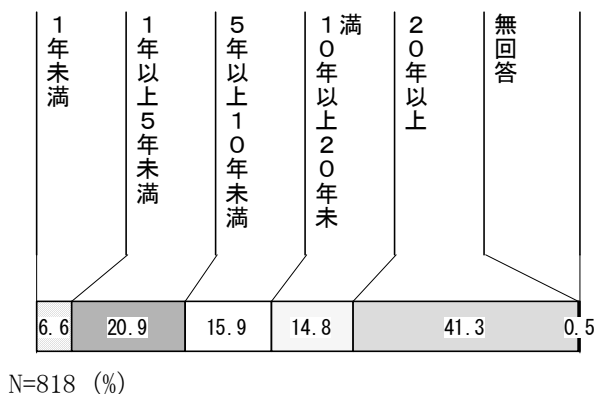


F 2 【年齢】

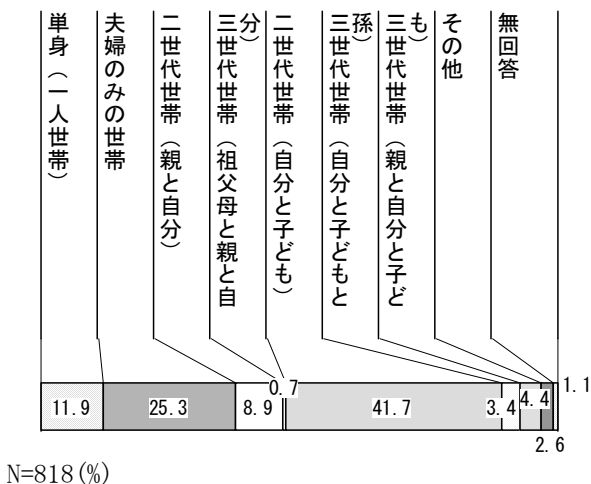
年代	女性	男性	無回答	合計
20代	67	41	0	108
30代	123	57	1	181
40代	64	74	1	139
50代	77	66	6	149
60代	68	64	0	132
70歳以上	52	48	3	103
無回答	4	0	2	6
合計	455	350	13	818

年代	男女比		既婚率(※死別・離別を除く)		
	女性(%)	男性(%)	女性(%)	男性(%)	計(%)
20代	62.0	38.0	35.8	34.1	35.2
30代	68.0	31.5	84.6	61.4	76.8
40代	46.0	53.2	79.7	85.1	82.0
50代	51.7	44.3	90.9	81.8	83.2
60代	51.5	48.5	70.6	89.1	79.5
70歳以上	50.5	46.6	51.9	85.4	66.0
無回答	66.7	0.0	-	-	-
合計	55.6	42.8	71.4	75.4	72.0

F 3 【居住年数】

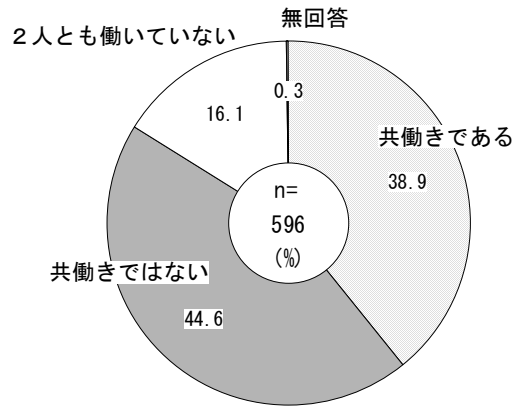
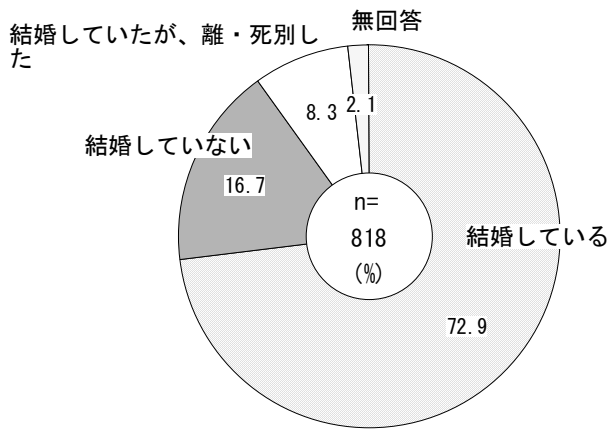


F 4 【家族構成】



F 5 【未既婚の状況】

F 5-1 【共働きの状況】

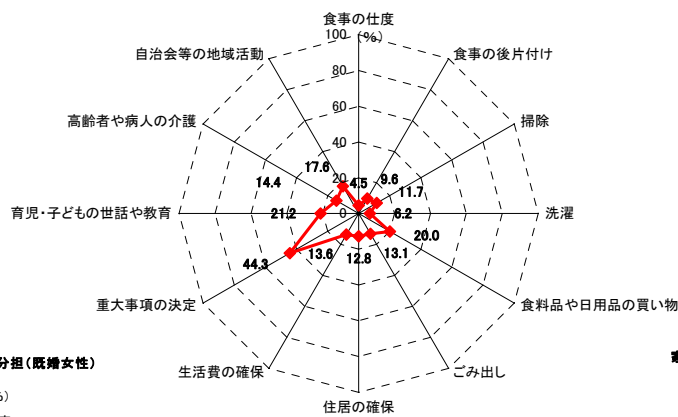


◇家庭生活について

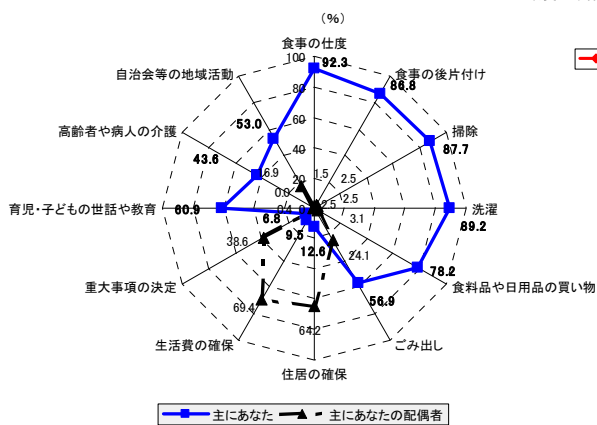
問2【家庭内での役割分担】 … 「あなたと配偶者が同じぐらいに」と回答した割合

「重大事項の決定」(44.3%)、「育児・子どもの世話や教育」(21.2%)、「食料品や日用品の買い物」(20.0%)以外の項目では「あなたと配偶者が同じぐらい」が20%以下となっている。

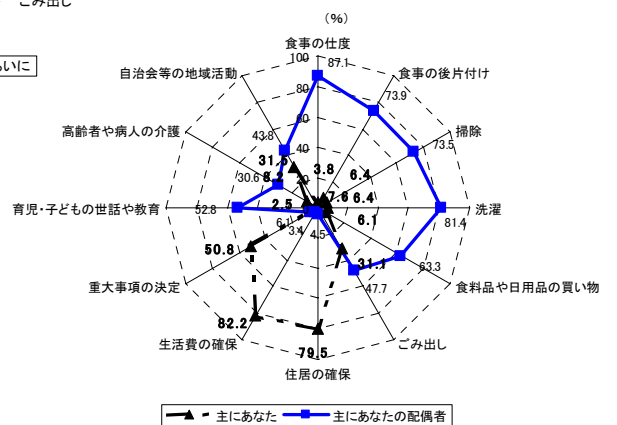
家庭内での役割分担



家庭内での役割分担(既婚女性)



家庭内での役割分担(既婚男性)



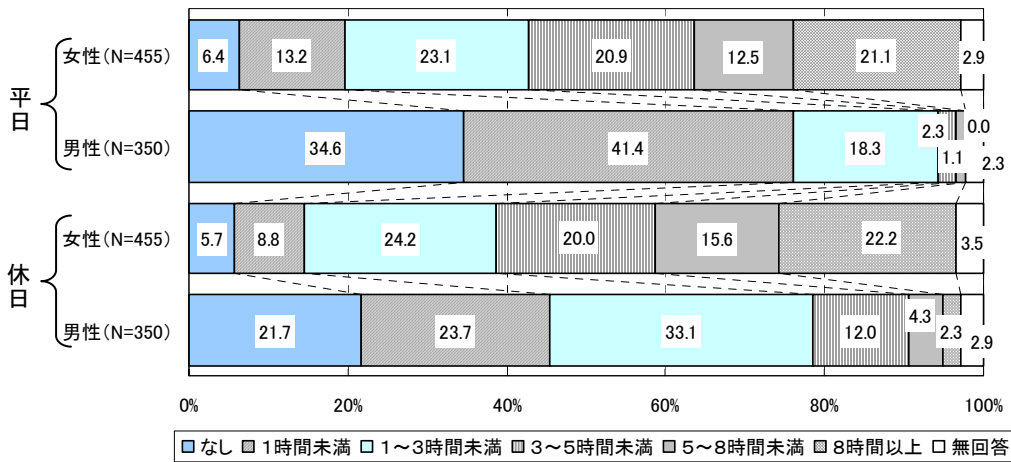
問3 【平日や休日に家事にかかわる時間】

<平日>

女性は「1～3時間未満」、「3～5時間未満」、「8時間以上」がそれぞれ2割強となっている。
 男性は「なし」「1時間未満」で約8割を占める。

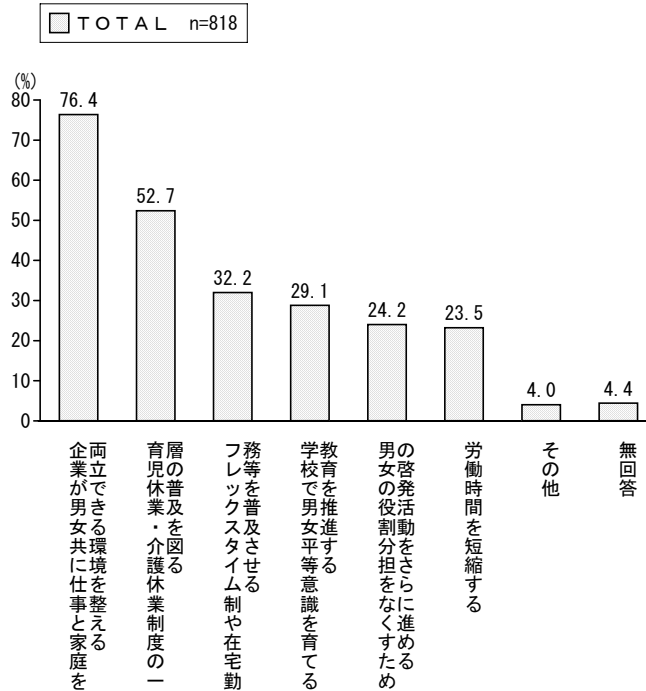
<休日>

女性は平日と傾向は変わらない。
 男性は「なし」「1時間未満」で5割弱、「1～3時間未満」が約3割となっている。



問4 【男性が家事・子育て・介護に参加していくために必要なこと】

「企業が男女共に仕事と家庭を両立できる環境を整える」が76.4%と最も多く、次いで「育児休業・介護休業制度の一層の普及を図る」(52.7%)となっている。



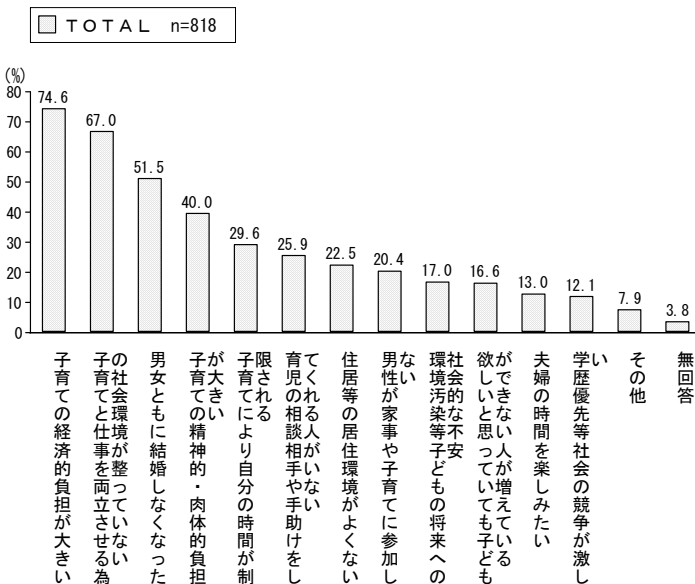
問5 【少子化が深刻化している理由】

「子育ての経済的負担が多い」が最も多く、74.6%。次いで「子育てと仕事を両立させるための社会環境が整っていない」(67.0%)、「男女ともに結婚しなくなった」(51.5%)となっている。

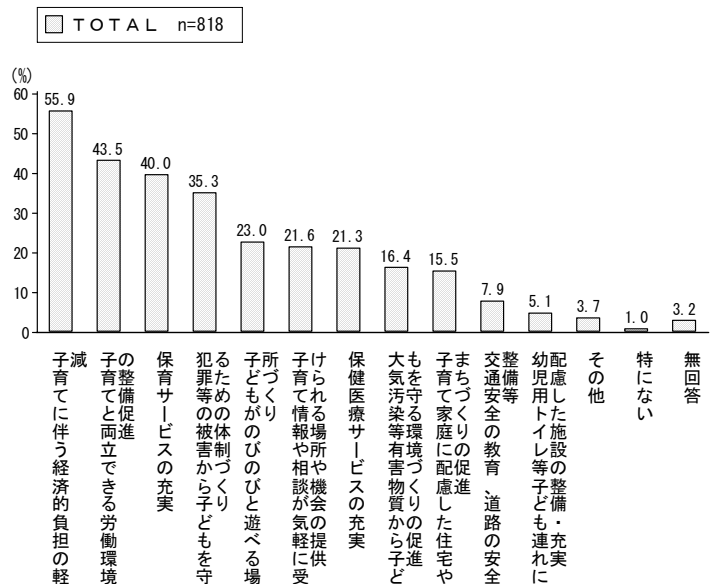
問6 【子どもをすこやかに育てるために市・県・国に期待すること】

「子育てに伴う経済的負担の軽減」が最も多く、55.9%。次いで「子育てと両立できる労働環境の整備促進」(43.5%)、「保育サービスの充実」(40.0%)となっている。

問5 少子化が深刻化している理由 (複数回答)



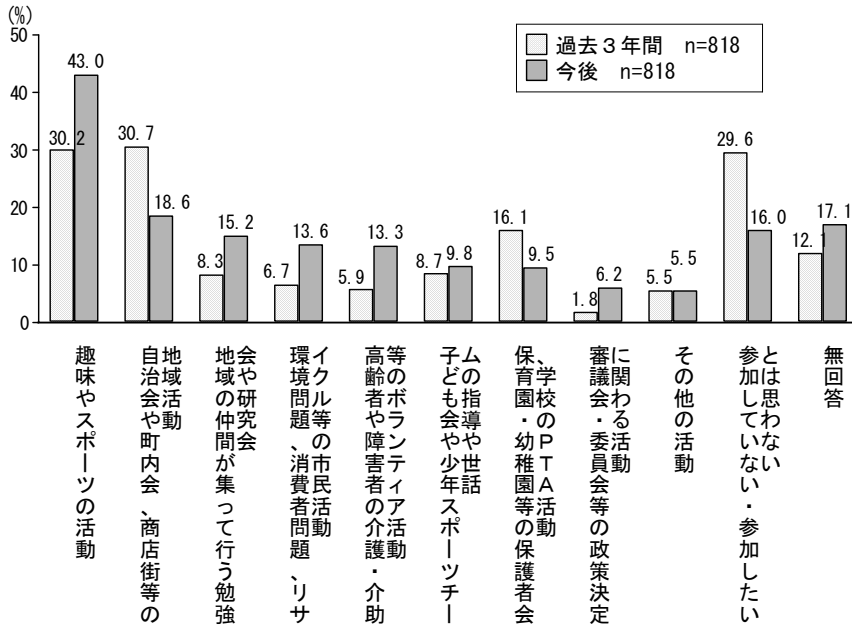
問6 子どもをすこやかに育てるために市・県・国に期待すること (3つまで回答)



◇社会参加について

問7 【地域活動・社会活動への参加経験・参加意向】

現状では、「自治会や町内会、商店街等の地域活動」(30.7%)「趣味やスポーツの活動」(30.2%)が多くなっている。今後の意向については、「趣味やスポーツの活動」(43.0%)が多くなっている。

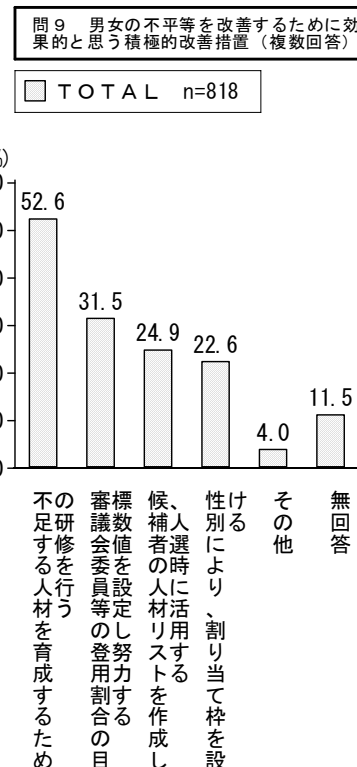
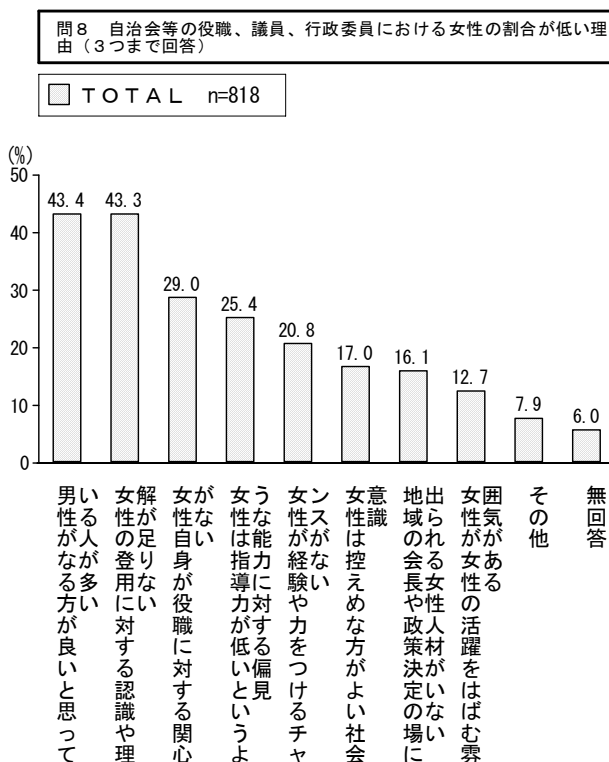


問8 【自治会等の役職、議員、行政委員における女性の割合が低い理由】

「男性になる方がよいと思っっている人が多い」「女性の登用に対する認識や理解が足りない」が多い。

問9 【男女の不平等を改善するために効果的と思う積極的改善措置】

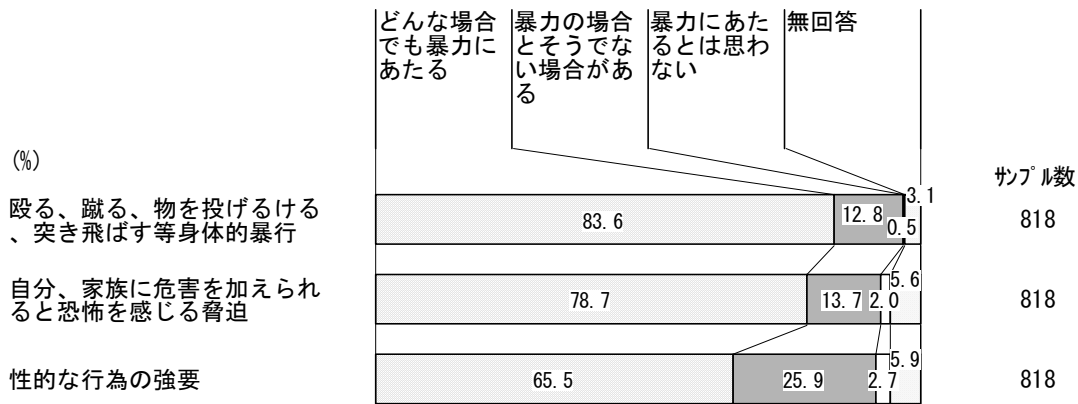
「不足する人材を育成するための研修を行う」が5割強となっている。



◇配偶者や恋人からの暴力について

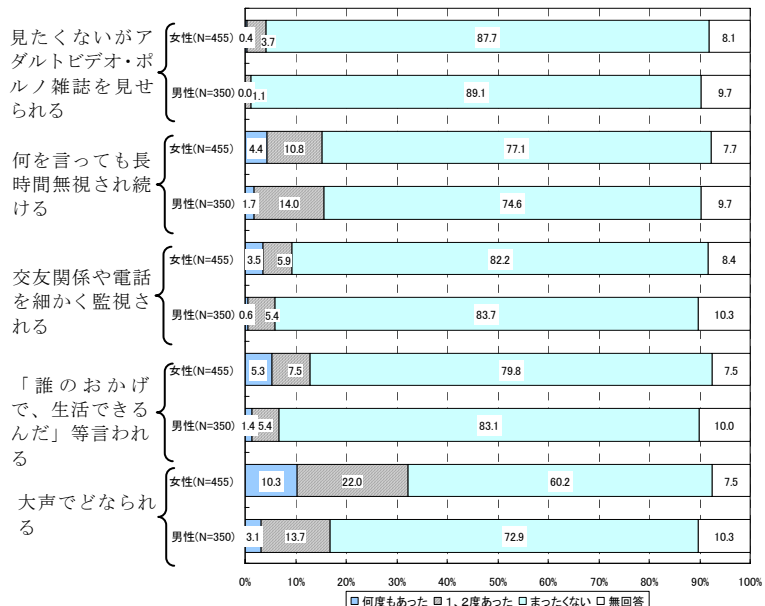
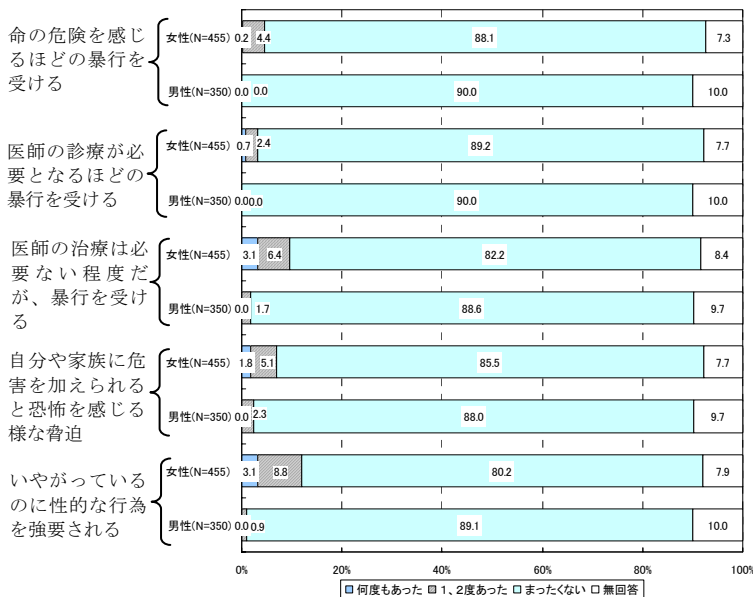
問 1 0 【夫婦や恋人間での暴力行為に関する認知度】

身体的暴力・精神的暴力については約 2 割、性的暴力については約 3 割の人が「暴力の場合とそうでない場合がある」「暴力にあたるとは思わない」と回答している。



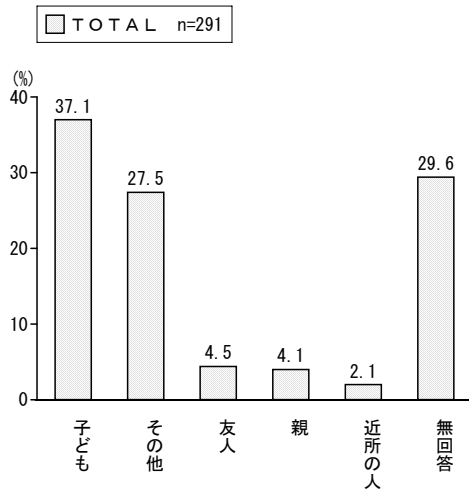
問 1 1 【配偶者や恋人から受けた行為】

291 人(35.6%)が何らかの暴力行為を受けたことがある。そのうち女性で 21 人(4.6%)は、「命の危険を感じるほどの暴行」を、54 人(11.1%)が「いやがっているのに性的な行為の強要」を受けている。また、男女ともに「何を言っても長時間無視され続ける」は 15% 程度、「大声でどなられる」は女性で 32.3%、男性で 16.8%の人が「受けたことがある」(「何度もあった」「1、2度あった」と回答している。



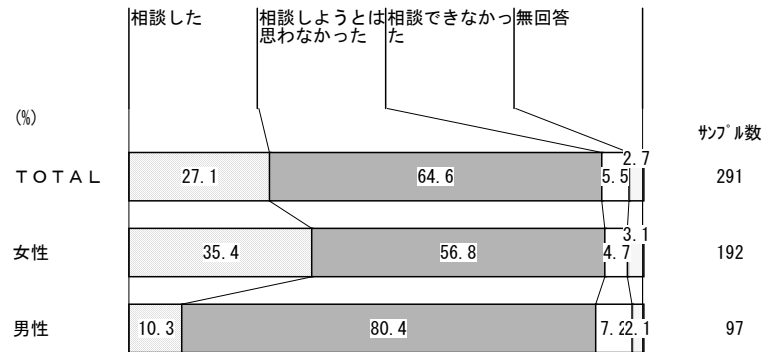
問 1 1 - 1

【その行為を受けたときに見ていた人】
 子どもが最も多く、37.1%。



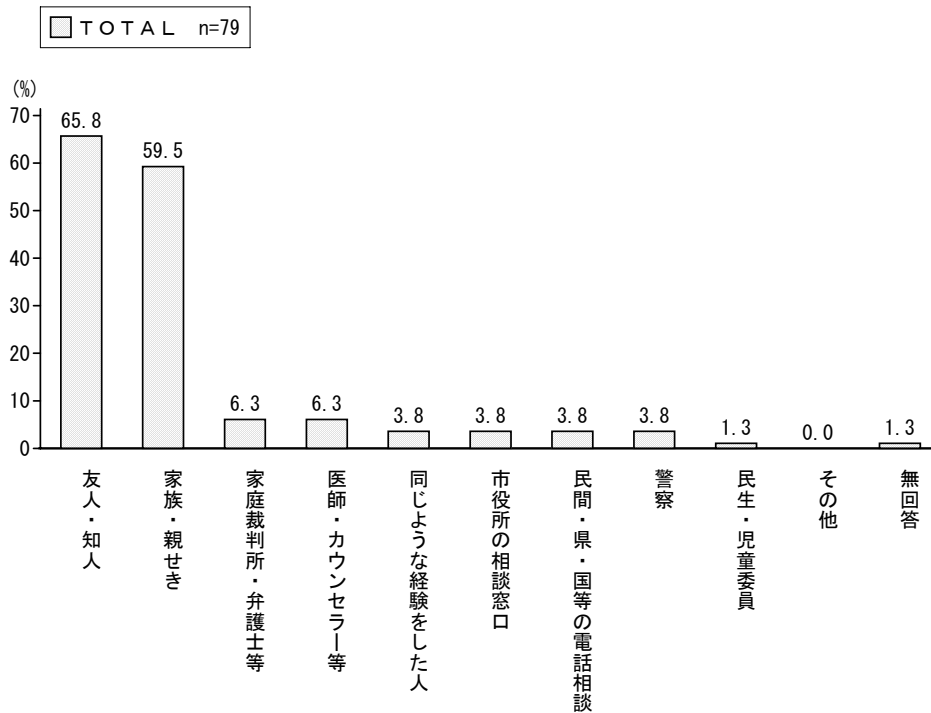
問 1 1 - 2

【その行為を受けたことについて誰かに相談したか】
 「相談した」が女性で 35.4%、男性で 10.3%。男性では「相談しようと思わなかった」が 80.4%となっている。



問 1 1 - 3 【相談先】

「友人・知人」が最も多く、65.8%。次いで「家族・親せき」(59.5%)となっており、身近な人への相談が多い。

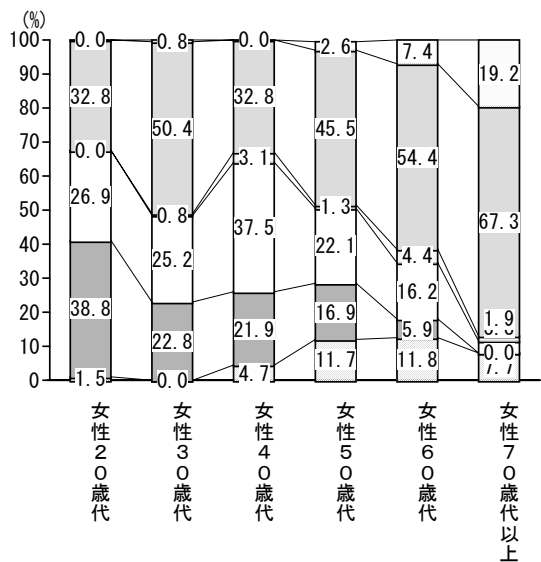
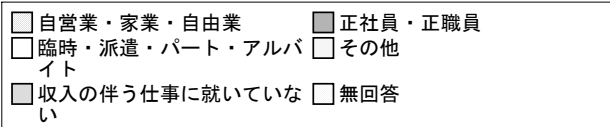


◇仕事について

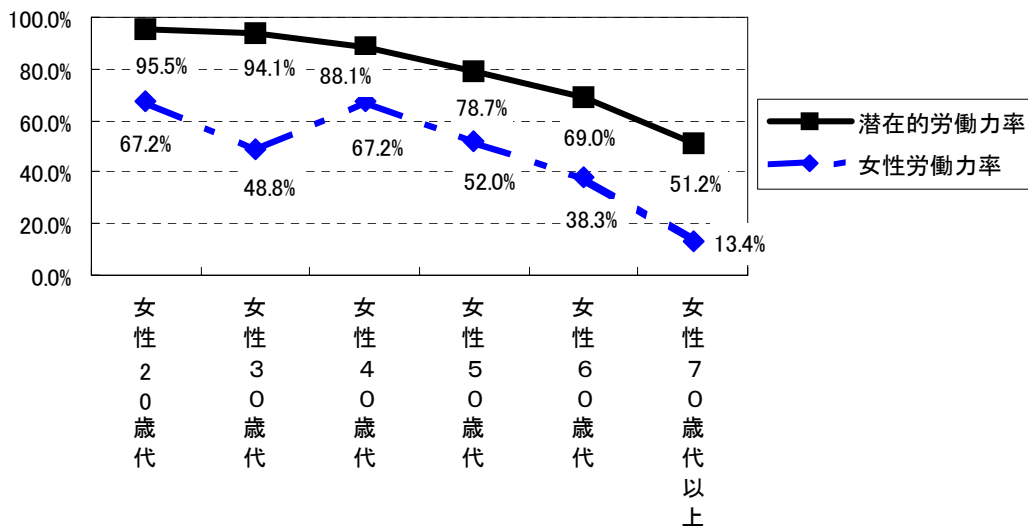
問 1 2 【現在、収入を伴う仕事に就いているか】

女性 30 代で「収入の伴う仕事に就いていない」が 50.4%であり、女性の就労は M 字型曲線を描いている。

問 1 2 就業状況



【参考】女性潜在的労働力率（今回の意識調査結果より算出）



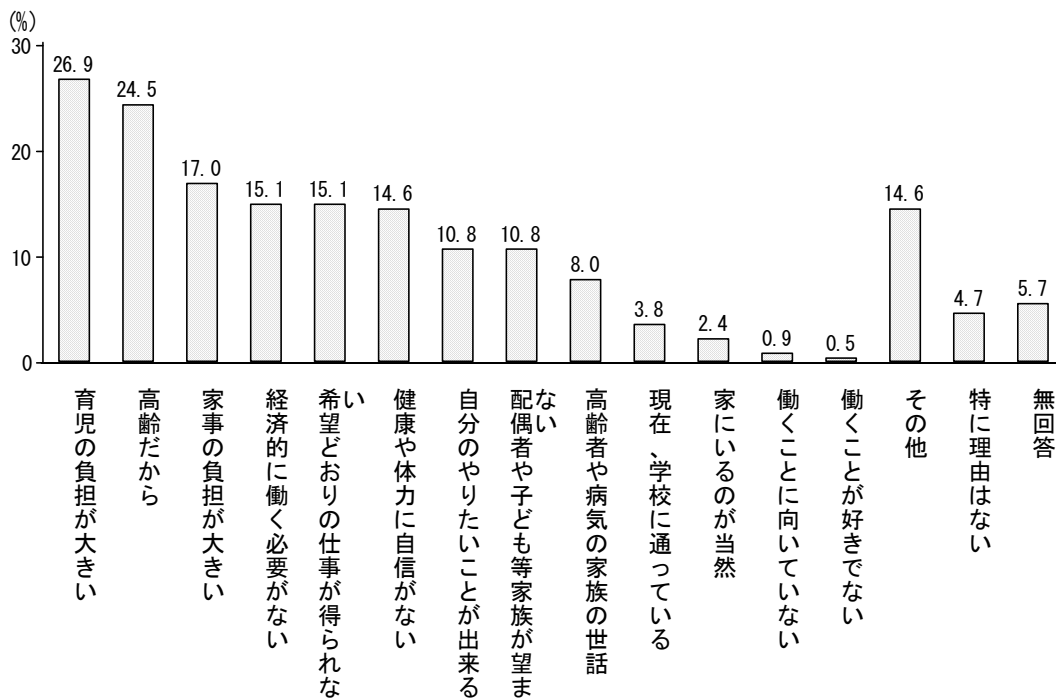
現在の就労状況と比較すると、どの年代でも就労意向が高いことがわかる。特に、女性 30 歳代では、実際の労働力率は 48.8%だが、潜在的労働力率は 94.1%と実態との格差が大きい。

※この値は、問 12 で「1～4」に○をつけている人（現在就労している人）、問 17-1 で「1」に○をつけている人（現在就労していないが、就労への意欲はある人）、問 17-1 で「2・3」に○をつけている人（現在就労しておらず、今後も就労する意欲はない）人に分類し、算出したものである。

問 1 7 【現在仕事をしていない理由】 ※女性のみ

「育児の負担が大きい」が最も多く、26.9%。次いで「高齢だから」(24.5%)、「家事の負担が大きい」(17.0%)となっている。年代別にみると、20～30代で「育児の負担が大きい」、30～40代で「家事の負担が大きい」が多い。

□ 女性 n=212



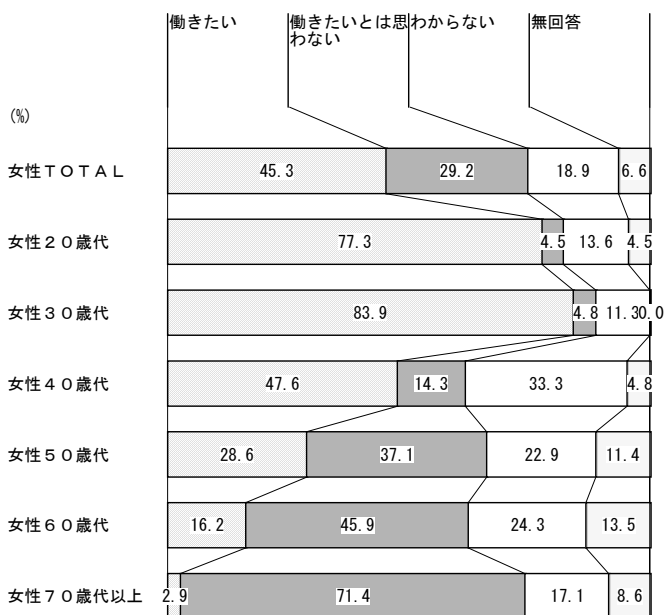
問 1 7 - 1 【今後の就労意向】

女性 20～30代で「働きたい」が8割以上となっている。

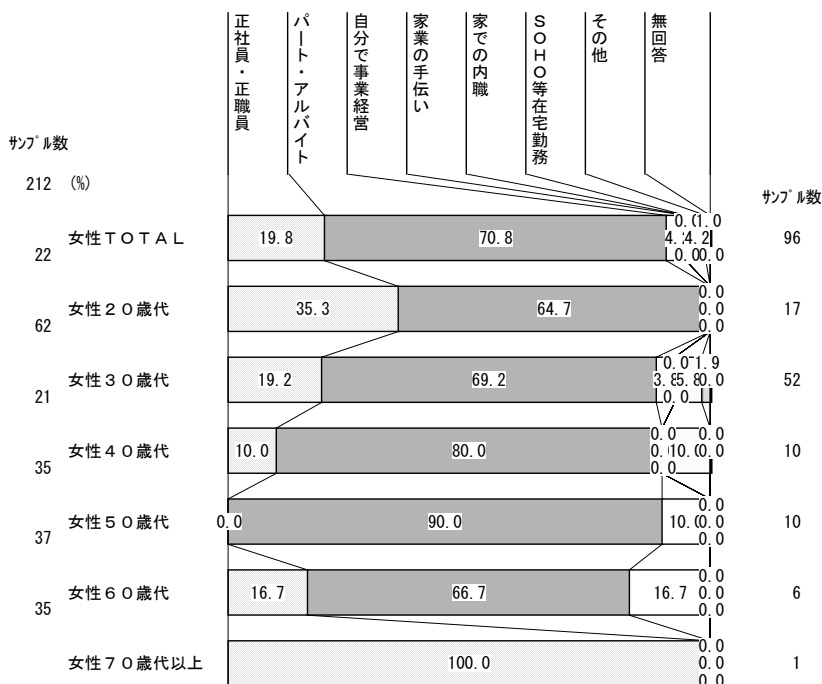
問 1 7 - 2 【希望する就労形態】

女性 20代で「正社員・正職員」が多いものの、全体として「パート・アルバイト」の希望が多い。

問 1 7 - 1 就労への意向



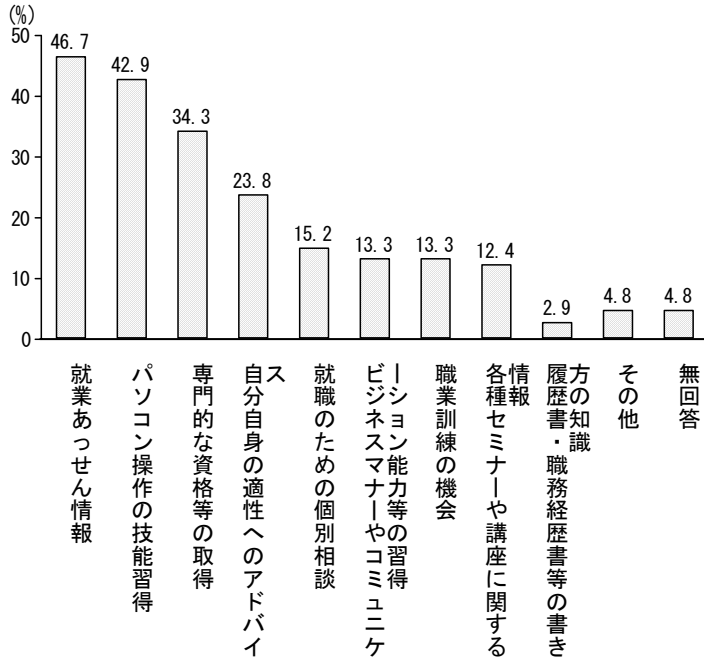
問 1 7 - 2 今後希望する勤労形態



問17-3 【働くにあたって、身につける必要性を感じていることやほしい支援】

「就業あっせん情報」が最も多く、46.7%。次いで「パソコン操作の技能」(42.9%)、「専門的な資格等の取得」(34.3%)となっている。

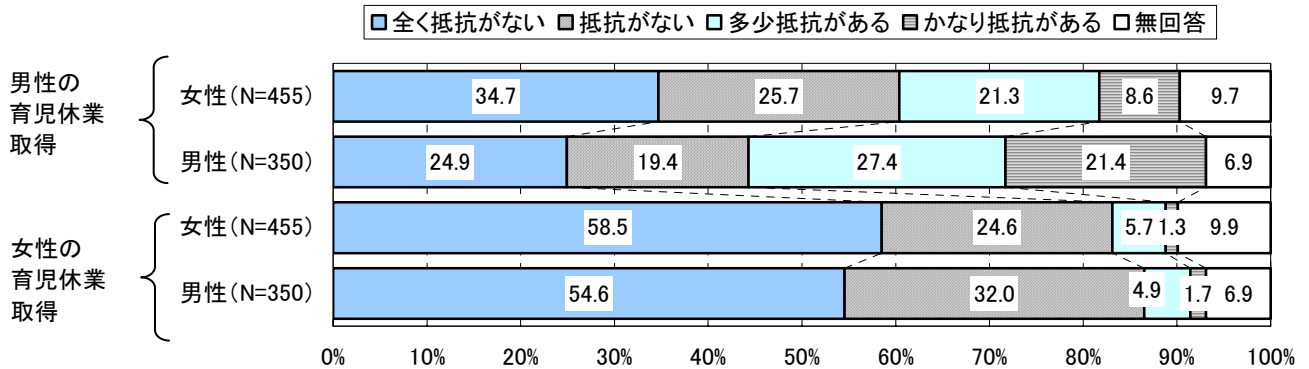
□ TOTAL n=105



問 15 【職場の人が育児休業・介護休業を取ることにどう思うか】

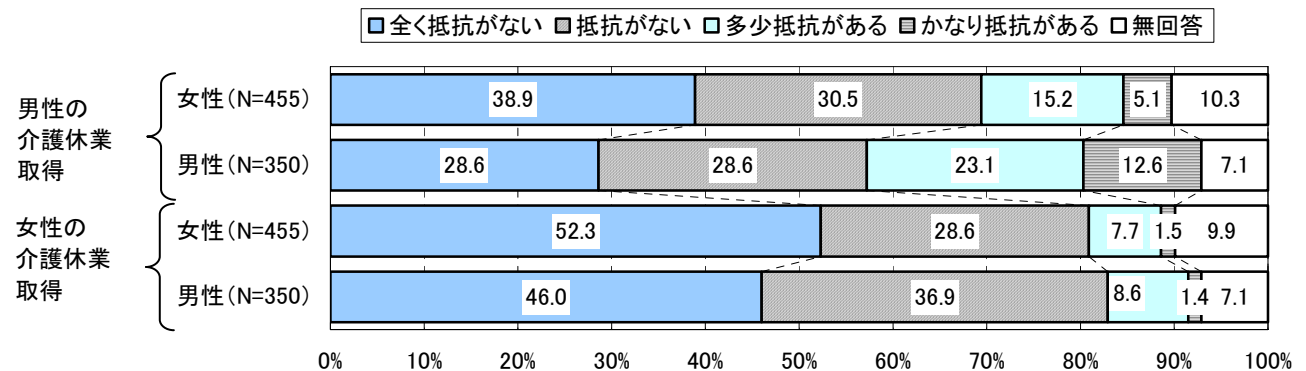
<育児休業の取得>

育児休業を男性が取得することについて、約半数の男性、約3割の女性で抵抗感(「多少抵抗がある」「かなり抵抗がある」)があった。女性が取得することについては、男女ともそれほど抵抗感はない。



<介護休業の取得>

介護休業を男性が取得することについては、抵抗が無い(「全く抵抗がない」「抵抗がない」)が、男性約6割、女性7割であった。女性が取得することについても、男女とも8割以上の人に抵抗がない。



問 1 6 【女性の働き方について】

女性の働き方について、理想・実態ともに「子育て中は一時やめ、パートで仕事を続ける」であるが、が最も多い。

(%)	結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)	子育て中は一時やめパートで仕事を続けている (いた)	結婚後、仕事を終った	結婚後、家事や子育てに専念している (いた)	子どもができたから家事や子育てに専念している (いた)	結婚後から家事や子育てに専念している (いた)	仕事はもっていない (いなかった)	その他	わからない	無回答	サンプル数
母親の働き方	23.1	7.1	14.5	2.7	4.0	12.7	15.5	3.2	2.1	15.0	818
女性自身の働き方	17.4	8.6	22.4	1.1	14.7	16.0	2.6	2.4	1.5	13.2	455
妻の働き方	14.6	8.6	18.6	3.7	14.9	15.7	4.6	2.3	2.0	15.1	350
一般的に望ましい働き方	14.4	17.2	20.3	1.2	10.4	9.0	3.7	0.6	4.2	18.9	818

問 1 6 - 1 【母親の働き方】

「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)」が最も多く、23.1%。次いで「仕事はもっていない (いなかった)」(15.5%)、「子育て中は一時やめパートで仕事を続けている (いた)」(14.5%)となっている。

問 1 6 - 2 【(女性の方に) 女性自身の働き方】

「子育て中は一時やめパートで仕事を続けている (いた)」が最も多く、22.4%。次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)」(17.4%)、「結婚後から家事や子育てに専念している (いた)」(16.0%)となっている。

問 1 6 - 3 【(男性の方に) あなたの妻の働き方】

「子育て中は一時やめパートで仕事を続けている (いた)」が最も多く、18.6%。次いで「結婚後から家事や子育てに専念している (いた)」(15.7%)、「子どもができたから家事や子育てに専念している (いた)」(14.9%)となっている。

問 1 6 - 4 【女性の働き方について望ましいと思うもの】

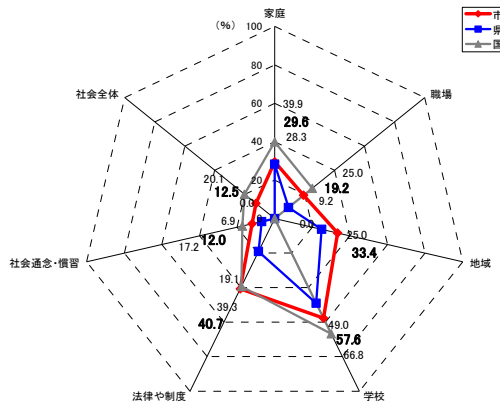
男女ともに「子育て中は一時やめパートで仕事を続けている (いた)」が最も多くなっている。

◇男女共同参画に関する意識や取組について

問 18 【各分野で男女の地位平等感】

「学校」が最も高く、57.6%。次いで「法律や制度」(40.7%)、「地域」(33.4%)となっている。全ての項目において、県よりも男女の地位平等感が高い。

「男女の地位は平等になっている」と回答した割合



※県の調査では「キ 社会全体」、国の調査では「ウ 地域」に該当する項目はない。

問 20 【あなたの考えに近いもの】

いずれの意見についても、Aの意見への支持が高い。

「夫婦ともに職業を持ち、経済的に自立することが望ましい」か「男性は仕事、女性は家庭に専念した方が望ましい」かでは、男性では意見が拮抗している。

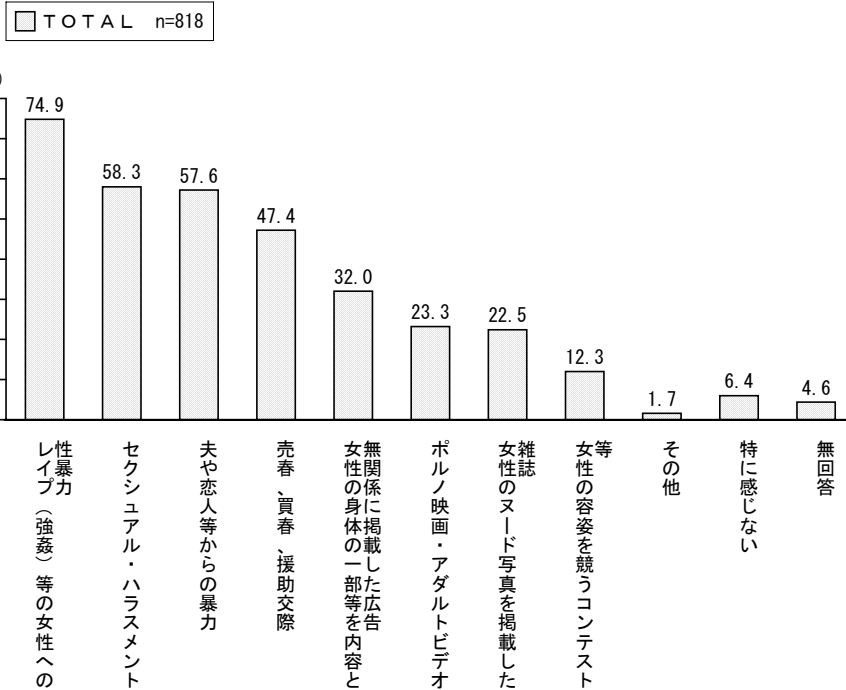
	Aの意見		Bの意見		
	Aに近い	Aどちらかというところ	Bどちらかというところ	Bに近い	
夫婦ともに職業を持ち、経済的に自立することが望ましい	24.0	33.8	27.9	7.9	男性は仕事、女性は家庭に専念した方が望ましい
	16.3	36.9	32.6	11.4	
家庭内では妻と夫は対等に話し合うべき	68.1	23.1	2.4	1.1	家庭内では妻は夫の意見に従うべき
	54.9	31.7	8.9	1.4	
やさしい男の子やたくましい女の子がいてもいい	49.5	26.4	12.1	6.8	男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」あるべきだ
	33.4	24.0	24.9	16.0	
妊娠・出産は女性自身の負担が大きいので、女性の意見を尊重した方がよい	40.7	47.9	4.4	1.3	妊娠・出産は夫婦だけでなく「家」の問題であるので、やはり男性の意見を尊重した方がよい
	43.7	43.7	8.6	1.4	
電話ボックスや街中の壁の風俗広告は規制すべき	76.7	16.3	1.3	0.2	電話ボックスや街中の壁などの風俗広告も、利用する人がいるのだから規制したりすべきではない
	74.0	17.7	3.7	2.0	

N=818 ※上段は女性、下段は男性(%）、無回答除く

問 2 1 【女性の人権が尊重されていないと感じるとき】

「レイプ（強姦）などの女性への性暴力」が 74.9%と最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメント」（58.3%）、「夫や恋人からの暴力」（57.6%）となっている。

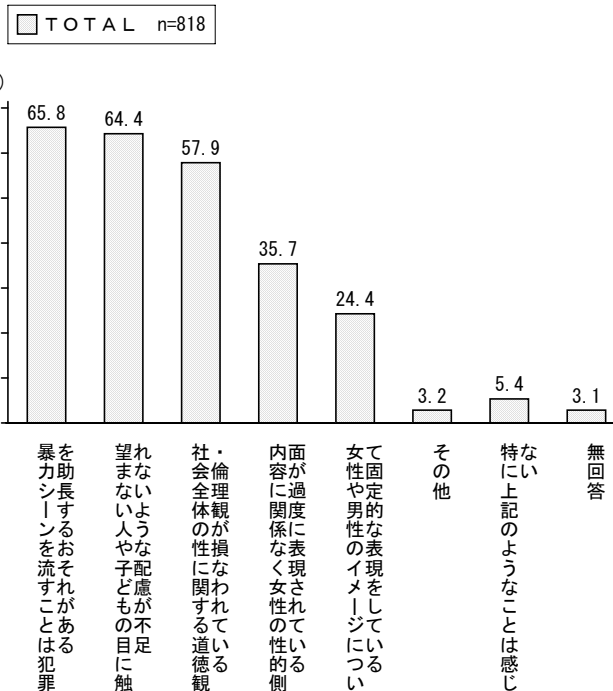
問 2 1 女性の人権が尊重されていないと感じるとき（複数回答）



問 2 2 【テレビ、新聞、雑誌等のメディアにおける性・暴力表現について感じること】

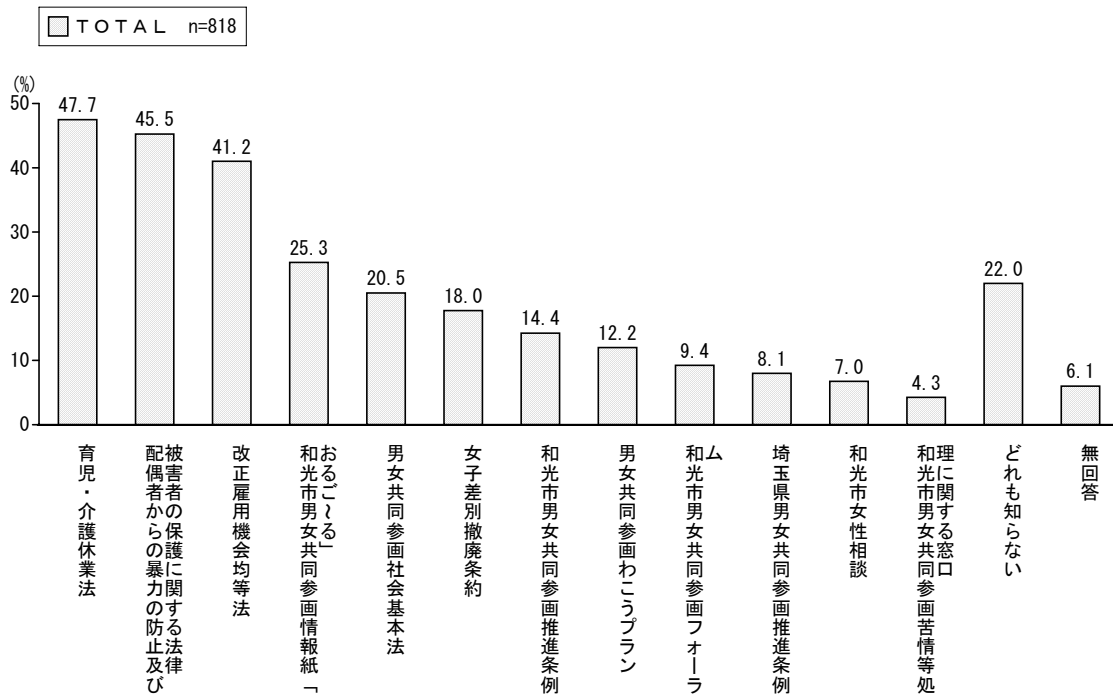
「暴力シーンを流すことは犯罪を助長するおそれがある」が 65.8%と最も多く、次いで「望まない人や子どもの目に触れないような配慮が不足」（64.4%）、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」（57.9%）となっている。

問 2 2 テレビ、新聞、雑誌等のメディアにおける性・暴力表現について感じていること（複数回答）



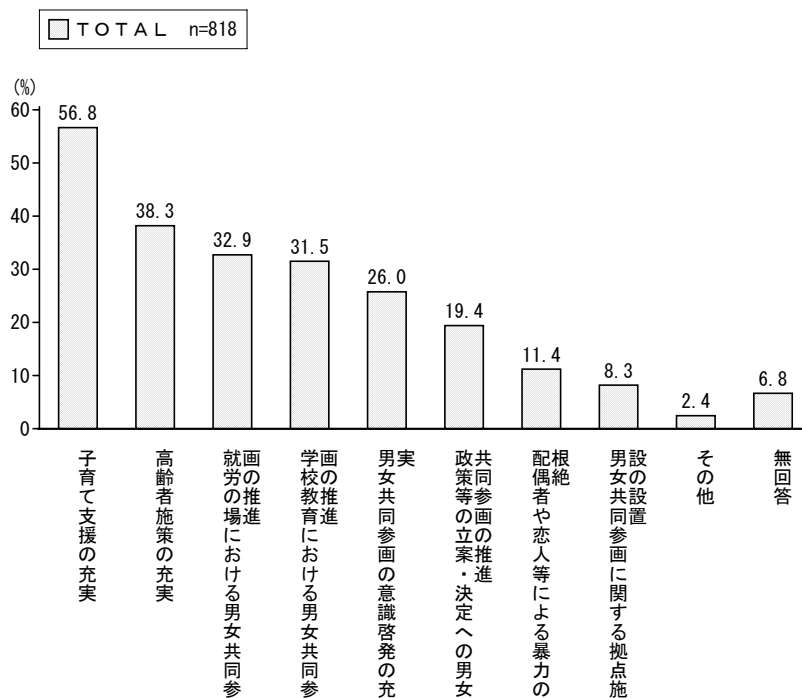
問 2 3 【男女共同参画推進に対する取り組みで知っているもの】

「育児・介護休業法」が 47.7%と最も多く、次いで「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(45.5%)、「改正雇用機会均等法」(41.2%)となっている。



問 2 4 【男女共同参画推進のために重点的に進めたらよいと思う施策】

「子育て支援の充実」が最も多く 56.8%。次いで「高齢者施策の充実」(38.3%)、「就労の場における男女共同参画の推進」(32.9%)となっている。



IV 自由意見一覧

和光市の男女共同参画に向けた取り組みに関する自由記入欄には全回答者 818 人のうち、計 125 名から意見が寄せられました。性別・年齢による構成は以下の通りとなっています。

市民の方の生の意見を紹介するために、誤字・脱字等の訂正以外は行わず、125 件全ての回答を性・年代順で掲載しました。

年代	女性	男性	無回答	合計
20 歳代	7	5	0	12
30 歳代	28	8	0	36
40 歳代	13	12	0	25
50 歳代	5	9	2	16
60 歳代	12	6	0	18
70 歳代以上	6	11	0	17
無回答	1	0	0	1
合計	72	51	2	125

	性別	年代	自由意見内容
1	女性	20 歳代	国についての取組は知っていたが和光市については知らなかった。もっと知る機会が増えればいいなと思います。
2	女性	20 歳代	子供が欲しくても出来ない、働きたくとも子育てや介護出来ない等、人それぞれ抱えている事情も配慮して考えていってほしい。
3	女性	20 歳代	和光市に引越ししてきてまだ3年なので、あまり市のことはよく知りません。ただ、今年看護師として就職する予定であり、結婚・出産後も仕事を続けたいので、保育施設のことが気になります。0歳児でも、夜間でも預かってくれる所がたくさんあればいいと思っています。入所するのにかなり順番待ちをする所もあるという話を聞いたので。
4	女性	20 歳代	以前、社会保険庁のアンケート回答者に無作為で選ばれ回答した事がありました。相次ぐ社会保険庁の倫理他モラルに欠けたニュースを見ると、時間やアンケートに要した費用が無駄でなんの意味も持たないものだと感じました。今回はそのように感じる事のないよう必ずこの意見を役立てて頂きたいと思います。
5	女性	20 歳代	いろいろな施策に取り組まれているとは思いますが、実労働世代には全く伝わらない。主に家庭にいる者にしか伝わらないのであれば、意味を成さないのでは？お役所の自己満足ではなく、広く市民に伝える、アピールして、実際に活用してもらえなければならない。どんなに良い施策、取組を考えついても、実行しなければ、何もしないのと同じ。
6	女性	20 歳代	わかりやすく説明されている冊子をつくるなど、気負わないで読めたり、体験できるものがほしい。実際、「男女共同参画」とか言葉が抽象的でわかりにくい。具体的な言葉の説明があれば、自分にもっとあてはめて考えやすい。
7	女性	20 歳代	和光市の取組を全く知らなかったなので、今後読んでみます。
8	男性	20 歳代	平等を目指すことが目的になってしまっている。それよりも男女共により過ごしやすい社会を作る方が重要な気がする。こんなガチガチに縛ったアンケートじゃなくて、もっと基本的なことを箇条書きで答えてもらった方がいいと思う。
9	男性	20 歳代	この意識調査がむずかしい内容の質問があると思いました（答えるのに困ると感じた質問がありました）。
10	男性	20 歳代	なぜ夫にしかアンケートがこないのか？
11	男性	20 歳代	女性を軽視していると、女性はよく主張しているが、実際は違うと思う。セクハラやヌード、ポルノ等で金をかせぐ女性は多いし、高収入を得られることから、自らすすんで水商売の道へ進むものも多いので、特に男女平等の運動をする必要はないと思う。考え違いをおこして調子にのる女性をふやすだけだと思うからだ。男には男の、女には女の役割をみつめなおして、意識の部分から改善すべきだ。
12	男性	20 歳代	男女共同参画の取組の目的が不明。市ができることは非常に限られていると思う。

	性別	年代	自由意見内容
13	女性	30歳代	「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」等の社会意識を変えていくような意識啓発が最も重要だと思います。ですが行政側からこれを行うことは、支援や施設の充実など目に見える取組とは違って、効果もわかりにくいですし、取組としては難しいことだと思います。地道な取組でも少しずつ意識が変化していくよう（次の世代ぐらいいまでは）頑張っていたきたいと応援しています。
14	女性	30歳代	自分自身、「女だから」ということで社会的（仕事でも）に差別を受けた経験はありません。男は経済的、女は家庭的でいいと思っています。出産しても働きたいなら、パートタイマーでいいだろうし、家庭も仕事も…はムリだと思います。仕事をしたいなら出産はあきらめたほうがいいと思います。男女平等なんて、なくていいと思います。女の特権を利用している人の方が多いのでは？男女平等をうたうなら、「女性専用車両」「レディースデー」はなくしたほうがいいと思います。
15	女性	30歳代	男性・女性とあえて分けずにできる人ができる事をやればいいと思う。無理して女性議席を増やしても、結局本人にしわ寄せが行くなら意味はないと思う。男性・女性という意識しすぎている感じがする。適材適所でやれる人がするのが一番では？
16	女性	30歳代	学校のPTA活動日を、働いている人の事も考え、土曜日や日曜日に設定して欲しい。平日の活動では、働いていないお母さん中心になり、意見も偏ってしまう。もっと子育てに男性が参加するように（出来るように）配慮した方が良くと思う。
17	女性	30歳代	地域でも社会でも女性が働きながら子育てする環境をもっと整えて欲しい。私はひとり親です。東京都から和光市に移ったら育成手当もなくとても住みにくいです。無料パスなども一切ありません。子供2人を1人で育てるのは大変です。和光市に住んでよかったと思える様な、又、和光市に移りたいと思えるような援助を実現させて頂きたいです。
18	女性	30歳代	育児中の者としては、子育て支援がお粗末だと感じます。子供、障害者、お年寄りを守り、暮らしに安心を見出せないと家庭に居る者の社会参画はありえません。
19	女性	30歳代	実は和光市の取組は知らない。計画とか、フォーラムとかは忙しいと全く目に入らない。ただ、和光市は保育園や児童センター等比較的新しく整っていると思われる。つまり、具体的に利用できる施策（抽象的なものではなく）の拡充に力を入れていただきたい。病後病中の保育など気軽に近くでうけられたらと思う。
20	女性	30歳代	活動が全く住民に伝わっていないと思う。和光市だけではどうにもならない事が多々あるので、今後どういった取組をしていくか見守りたいが、活動の情報入手の場所は？
21	女性	30歳代	あまり市の政策や取組を知らないのに申し訳ないですが、もし、以下のようなことがまだ取組まれていないなら考えて頂きたいと思います。私は以前交際していた男性から暴力を受けました。今は別れることができましたが、別れて1年以上経つ今も、当時のことを度々思い出して怯えています。暴力に悩んでいる女性の相談所そして、そのカウンセリング等のサービスが市で行われたら良いと思います。体の傷はいずれ治るかもしれませんが、「恐怖」はなかなか取れないものなのです。今回のアンケートとずれているかもしれません。また、もし既に行われていたら、余計な一文でした。申し訳ありません。

	性別	年代	自由意見内容
22	女性	30歳代	男女共同参画もすばらしい事だとは思いますが、職場での昇進もやりがいがあるとあり、とてもあこがれますが、子供のころからの夢で”すてきなお母さん”と思い、子育てをしっかりとやりたい。私のような人は今はいないのでしょうか？子供の犯罪なども増え、家をきちんとまもる母がいても良いと思います。私はこどものために犠牲になったとは思っていません。色々な生き方があるので、仕事を続けることだけが素晴らしいことではないと思います。求人を見ると35歳までとかが多く、子供をしっかりしたママたちが仕事につけるようにしてほしい。
23	女性	30歳代	まだ具体的な活動を身近に感じることができません。今後の活躍を期待します。
24	女性	30歳代	市で行っている取組や、窓口の設置、条例等が市民には伝わってこない（きていない）と思う。せっかく取り組んでいるのであれば、知っている人だけが…というのではなく、誰でもが知っているよう、情報の周知徹底を！
25	女性	30歳代	私は子育て真っ只中です。社会といっても、子供同士のつき合いや、近所のつき合いぐらいです。働いていた時は、男女差などあまり感じていませんでした。今、子供との生活で一日が終わってしまうと、女性の地位など無関係です。アンケートの中に出てくる女性の出世…それよりも、きっとどの主婦も、女性も、根本的にみとめられたいのではないのでしょうか。働いて、成果を得られ、認められたいというよりも、女としての自分を男性に認められただけなのではないのでしょうか。男性（夫）（父）が女性（妻）（母）のありがたさを理解すれば、社会全体が変わると思います。
26	女性	30歳代	アンケートを check するにあたって、不明確な質問もあった。なんとなくスッキリしないアンケートだった。男女、男女と平等ばかりに行かないこともあるでしょうと思う。問21に関して※人間をつくる上での、幼少～の教育や、親として、子育てするための教育が人をつくることを考えると、《人権を尊重》うんぬんより、前段階の基礎固めを！
27	女性	30歳代	アンケートが多すぎて、子供が3人いる身では大変！もう少し短いアンケートにしてほしい。
28	女性	30歳代	道路、歩道が悪い。特に歩道が狭く、すれちがえないので、道路によけるしかなく、危ないところが多く、早く歩道を広くすべき。和光市役所の周りばかりが広く、きれいで役所は本当ズルイと思う。だからお役人はたたかれる。自分たちのところは最後にまわすべし。
29	女性	30歳代	男女共同参画の取組については、特に意見はないのですが…。大和中学校の前のゴミ置き場が非常にきたなくていつも不快に思っています。マンション・ソレイユ・ルヴァン。捨てる人のマナーが悪いとは思いますが目に見える問題なので、どうにかなりませんか？
30	女性	30歳代	考え方として男女平等は大切だと思いますが、働く事、子育てなど、それぞれ男性と女性では肉体的・精神的に向き不向きがあると思いますので、全て同じに考えるのではなく、男女の特色も生かされる取組を進めていって頂きたいと思います。
31	女性	30歳代	和光市の男女共同参画の取組については、殆ど知らなかったもので、今後注目していきたいと存じます。駅前・ヨーカドー等、情報を掲示していただければ助かります。
32	女性	30歳代	このような男女共同参画とかあること自体が、まだまだ男女差別があると思います。少子化が問題という割には和光市でも保育園になかなか入れず、非常に困っています。早くなんとかして下さい。

	性別	年代	自由意見内容
33	女性	30歳代	子供が元気に大きくなれる市になってほしい。あらゆることに男女が共同でよりよく無理なく参画可能な環境を整え、情報も簡単かつ明確に得られるようになればよいと思う。
34	女性	30歳代	やはり、育児施設が充実すれば、女性も安心して子供を産み、育てていこうと思うはず。この点が、最も気になります。
35	女性	30歳代	私自身は女であるが故に差別や不平等を感じた事は特にありません。むしろ、女にしかできない特性、女で良かったと思える機会を十分満喫しています。ただ、とても優秀で、能力があるのに、「女性」という理由でくやしい思いをされている方が多数いらっしゃるのも事実です。私は自分の今できる事として、まずは自分の子供に「人として」大切な事をきちんと伝えていきたいと思います。
36	女性	30歳代	はっきり言って今、「男女共同参画」を進めるよりも、もっと先にやらなければならない事はあると思います。男女平等って事はありえないし、私自身は体力も知力も男性に勝てるとは思わない。人間本来男性にできる事、女性にしかできない事があると思う。少子化が深刻であるなら、そこをもっと考えなければいけないと思う。
37	女性	30歳代	男女共同参画頑張ってください。世の中は男と女だけなので、全部平等は難しいと思います。やはり男にしか出来ない事、女にしか出来ない事もあると思いますが、やるチャンスの場はあってもいいとは思っています。
38	女性	30歳代	子供を生んだら働けない。保育施設が充実していない。少子化が問題の世の中、生んでも育てるのが大変。住みにくい世の中。うちでは小さい子供が3人もいるので働けないし、お金はかかるし将来にとっても不安を感じます。
39	女性	30歳代	夫婦共働きしながら、次世代の社会をになう子どもたちを一生懸命育てている世帯に対し、目に見える支援（経済的な給付や得になること）を行政が行ってほしい。少子化対策にもっと具体的に取り組むべきだと思います。
40	女性	30歳代	普段、夫婦共に仕事で忙しく、なかなか地域活動に参加することや、地域の情報を目にする機会がないので、今回、この様なアンケートに答えることによって、地域の事をもっとよく知ろう、とも思いました。また、施策や企画の立案等も一部の偉い人で決めるのではなく、この様な形で色々な環境（家族、住宅、経済）の市民の声を聴いて参考にすると良いのではないかと思います。和光市の取組を知るいい機会となりました。何かの形で、また協力したいと思います。
41	男性	30歳代	実際に社会で活躍されている女性の方の講義やエピソード等を聴く機会が多くあれば、意識も高まるのではないのでしょうか。
42	男性	30歳代	電柱・トンネル等にあるビラや落書き等の対策をお願いしているが、全く改善がみられない。この様な状況を放置している和光市がこの「男女共同参画」に対して具体的な取組をすることは可能なのか。疑問だ。
43	男性	30歳代	行政より男・女と区別され行う企画では意味がないと思われる。各家庭・各個人毎に考え方にちがいががあるので、「男が女が男女共同がと聞くと、TV タレントのような某女史の言葉に聞こえてならない。子育て（少子化）ならそれと一つ一つを確実に行って行く方が良策ではないでしょうか？
44	男性	30歳代	和光市の取組について全く知りません。周知活動が足りない。

	性別	年代	自由意見内容
45	男性	30 歳代	条例が施行された事を知りませんでした。今後どのような目的をもって市としてどのように行動していくのかをPRをしっかりとし、市民とともに取組、市や一部の市民の自己満足に終わらない事を望みます。また他市、県、国との情報交換等必要でしょうが、内閣府からのトップダウンによる右ならえにならず、市民中心の条例であることを望みます。
46	男性	30 歳代	活動が見えてこなければ意見の書きようがない。毎日何をやっているのか意味不明。市民1人1人に説明する、又は活動が見えてこないのならば、このようなアンケートは無意味。これからの動向を見ようと思う。税金のむだ使いにならない様にしてほしい。
47	男性	30 歳代	単に男女平等なんていかない。女性専用車両をはじめ、女性を過保護し、男性が窮屈になってる部分もある。男は男らしく女性を優しく保護し、女性は女らしく家庭を守る。動物的、原始的生活の重要性を教育させることが、数々の問題解決になると思う。
48	男性	30 歳代	見かけだけでなく、和光市として積極的かつ具体的な政策を発表して下さい。「個人個人の意識向上を目指して…」というようにどこにでもあるスローガンを掲げるのはやめた方が良くと思います。(もっと失望する人が増えると思います)。まず、和光市に住むことが素晴らしい、進んでいると思わせる政策(男女共同参画の)をお願い致します。がんばって下さい。
49	女性	40 歳代	いつも感じるのは、このようなアンケート調査のみで色々なことが決められてしまうのかなという事です。一部の方々上部にいらっしゃる方々の会議だけでは実際に決議されて内容など拝見しますと様々な疑問が皆さん(一般市民)にはあるようですよね。それに一番携わってよく知っている人間を市民の中からも参加させて、もっともっと良い意味でオープン!開かれた市政を願ってやみません。
50	女性	40 歳代	そんな事に税金を使わないでください。(無駄な施設も多すぎです)。まわりで何とかできる問題ではなく、女性本人の問題だと思います。私は「初の女性総合職採用」などとさわがれた時代の間人ですが、やはり女性は逃げ出してしまい男性と同等に働く(扱われる)ことはかなり難しいと感じました。女性が社会でがんばるという事はより少子化をまねく事となると思います。今のままでいいのではないのでしょうか?
51	女性	40 歳代	男女共同参画の取組についてはあまり興味なし。必要なしというのが正直なところ。
52	女性	40 歳代	男性・女性と区別することにばかり目を向けるのではなく、一人の人間として自分の思う様に生きられるという事が大事なのではないでしょうか?性別ではなく、一人一人の個性で、向き不向きがあると思います。女性だから、男性と平等に機会が与えられないという事は最近減ってきている様に思いますが…。
53	女性	40 歳代	夜、なぜ和光市内が耳がおかしくなるぐらい音がするのでしょうか?電線が和光市は多くなった。
54	女性	40 歳代	男女共同参画の取組の対象はいったい誰でしょうか?私のように都内で働く人間にとって、市政は遠い位置。住民税を払っていても、利用していないと感じてしまいます。高齢の両親も男女共同参画の一員ですか?オーバーすぎるように感じます。

	性別	年代	自由意見内容
55	女性	40 歳代	〔問5〕に、出生率 1.29 となり少子化が深刻化…と書いてありますが、私はそれが深刻な問題とは思っていません。結婚する・しない、子供を産む・産まないは、一人一人が自由に選択すべきことで、誰も強制することはできません。子供が多い方が良いという意識のもとで、それを推進したり、女性にプレッシャーを与えることは良くないと思います。このまま、どんどん少子化が進んでも、住みやすい環境を作っていくことはできると思います。
56	女性	40 歳代	男女共同参画をうたう前に、本当の人間教育の方が必要。ばかげた仕事を増さず、足下の大事な事を放っておくのは職務怠慢だと思う。
57	女性	40 歳代	私は大学卒業以来、働き続けてきましたが、40 代で転職し、女性であることと年齢の壁に、大変な苦勞をしました。同世代の友人、また 30 代の友人とともに「産めない」のではなく「育てられない」世の中だと、口々に子育てについて語ります。子供もなく働き続けていても、リストラや男女差別、そして年齢のハンディで多くの試練があります。子育てをして、一段落して仕事に復帰しようとしても、なかなか世間はきびしく、パートの仕事しかありません。だからといって子供をたくさん作って、にぎやかな家族を…と思っても、経済的にも、そして居住環境、教育のことを考えると、どうしても子供の人数を増やすのはむずかしい…。今の社会は生活の質やある程度の教育水準も求めているのでどうしてもお金がかかります。子供を育てにくい世の中になってしまったようです。和光市は子供を”育てやすい”と言われるようになってほしいと思っています。
58	女性	40 歳代	社会や家庭において男女差別のないことを望みます。例えば、職業の選択、育児や介護休暇、家では家事や DV 防止等です。
59	女性	40 歳代	いかなる場合も数値目標を設定するべきではない。女性が少ないから、女性なら誰でもとにかく採用する、役職につける、という考えには全く賛同できない。いろいろな分野で男女（の数）の差があるのは自然である。「能力があるのに女性というだけで役職につけない」という事例をなくす、というのがあるべき姿である。男女共同参画など、市政の中で優先度が低い。財政の健全化、治安の回復、教育の充実（特に市立の小・中学校）、環境の浄化（空気が悪すぎる）など、先にとりくむべき重要な問題が他にたくさんある。市政に何を一番望むかのアンケートをするべきだ。
60	女性	40 歳代	男女平等とはいえ、子どもを産むのは女性です。そして、どの子ども生理的に母親が大好きなのだと思います。子育ても、大切な仕事だと思います。
61	女性	40 歳代	すみません、今、嫁姑問題や主人との不仲で、離婚を考えている為、アンケートにあまり協力できませんでした。特に強く思っている事ぐらいにしか書けませんでした。
62	男性	40 歳代	和光市は練馬区に比較して高齢者福祉がまったくお話にならないほどひどい。市長自らムダなハコものを作らず福祉施設を充実すべき。
63	男性	40 歳代	必要性が低いのに、ムリに企画を作って仕事を増やすのはやめるべき。特に既存の法律の範囲で十分対処できるのに、屋上屋を重ねるような条例作りや、支援と称するカネバラマキ型の政策はやめるべき。
64	男性	40 歳代	具体的活動内容の情報提供不足だと思います。

	性別	年代	自由意見内容
65	男性	40 歳代	男女共同参画の取組の為に、子供に対する親への支援。和光市では、他の市よりも、子供に対しての補助金等が多いが、家庭においてはまだまだ少なすぎるし、対象年齢も上げて欲しい。その事が少子化にも歯止めをかける。
66	男性	40 歳代	人間には生まれながらにして男と女がいます。環境と努力によってある程度の逆転は可能ではありますが、本来の男と女の本質は大切に考えていきたいと思います。それを加味していただければ、できる範囲で協力したいと思います。
67	男性	40 歳代	具体的にどのようなことをしているのか、全くわからない。
68	男性	40 歳代	絵に書いた餅でない事を期待します！
69	男性	40 歳代	自分の職場（国家公務員）＜本省＝霞ヶ関＞もそうだが、公的機関における昇進・評価面で男女間の格差（女性不利）が有る。反面、代替要員の不足等から女性の育児休業等は確保されつつも男性の育児休業は非現実的な実態にある。
70	男性	40 歳代	質問の内容が偏っている様に思われる。この質問項目では片寄った集計結果になるのでは。もっと視野を広くし、質問項目を考えた方がよい。税金を大事に使ってほしい。
71	男性	40 歳代	将来を担う子供たちの学校教育分野での推進が重要。
72	男性	40 歳代	全体的に現在は男性優位であって、それを改善しなければならないという主旨でアンケートが作られているような感じがします。しかし現状はそういう部分もありますが、男性を差別している部分も多いと思います。その部分にもスポットをあてるべきだと思います。（例えば生き方ひとつにしても収入の問題はありますが、女性の方が選択が大きいと思う）
73	男性	40 歳代	和光市民ひとりひとりが男女の差を感じることなく、安心して、快適に暮らせる都市になるよう、行政と市民が協力してゆかなければと考えています。
74	女性	50 歳代	積極的に取り組みをされている姿を高く評価しています。意識の改革を伴うことで効果が目に見えにくいし、時間のかかることかと思えます。息の長い取組を。市議の女性の割合は他の一般に比べかなり多い方と思いますが5割には到っていません。市の職員については女性の地位は男性と同等になっているのでしょうか？
75	女性	50 歳代	今、政府は配偶者控除・年末調整の見直しなど何かと国民から、特にサラリーマンからお金を取る事ばかり考えています。小さい子供がいて、保育園に預けるのにもいろいろと条件枠があり働きたくても働けないのに。また、年齢が上になると年齢制限にもなり仕事もみつかりません。まるで、専業主婦はいけないみたいです。これではいくら子供を産んで特典を増やしてもダメです。もう少し暮らしやすくして下さい。
76	女性	50 歳代	男女共同参画必要なし。
77	女性	50 歳代	住みやすい和光市に。
78	女性	50 歳代	男性に男女共同参画の意味を特に説明してほしいです。男性は言葉は知っていても、中身まで知ろうとしてないのでは！
79	男性	50 歳代	苦情処理の窓口があるなら、もっと広報するべき。
80	男性	50 歳代	無駄な経費をついやして努力しても、急には改善されない。
81	男性	50 歳代	小・中学校公教育における異常な性差教育が問題になっている。一部の教員にまかせるのではなく、市全体で考えるべきであり、行政主導が大事だと思います。男女共同参画社会イコール、ジェンダーフリーをむりやり結び付ける傾向があるが、異質であり、特に小学校での教育には気をつけていただきたい。

	性別	年代	自由意見内容
82	男性	50歳代	保育園の増設・小学校を白子3丁目につくって下さい。現在遠すぎます。
83	男性	50歳代	基本的に個人の意識改革ができないと、中々難しいと思われる。しかし、難しいからといってそのまま放置していても進歩がない。やはり、STEP BY STEP でやっていくしかないでしょう（月並みなコメントですが…）。
84	男性	50歳代	各種委員会等に思い切った女性枠を導入したらいかがでしょうか？（人材はおられると思います）
85	男性	50歳代	隣の成増1丁目、佐藤工学管理人両親殺人事件についてご意見申し上げます。この家庭は、10年前に父親の事業の失敗により、経済的に余裕のない状況にあったものと推測されます。おそらく何千万～億単位の負債を負って、リーガルサービスも受けていないのではと思われます。未来のない家庭で、父親は余裕のない状況下で、子供は息も出来ない辛さをかかえていたのかもしれませんが。リーガルサービスの容易に受けられる環境があれば、平和な家庭の招来と、安心して、男女共同参画社会の招来が可能なものと思われます。
86	男性	50歳代	女性に対して、自由は確保されていると思う。それをどう利用するか。女性の問題。（環境も）。
87	男性	50歳代	全くわかりません。和光市では男女共同参画がどのような状況になっているのでしょうか。（かけ声だけの様な気がしますけれど…むずかしい問題だと思います）。
88	女性	60歳代	和光市が男女共同参画を第1の実現化に重点を置くことが結果、日本全国の注目を集め、市繁栄への道が約束されること間違いなし。是非力を注いでください。
89	女性	60歳代	もう少し若いうちにこの様なアンケートが出来たのなら違った答えもできたかとも思いました。
90	女性	60歳代	この様な事柄を知らないという市民（女性）が多く感じました。おるご～るに目を通さない方も多く、もう少しPRをしてほしいと思います。
91	女性	60歳代	和光市市民憲章を声に出して読んでみました。男とか女とかではなく、一人一人の市民が、この基本理念を形にして行けば、良い社会になると考えます。どんな企画も活かす人がいてこそでありましょう。
92	女性	60歳代	言葉の上で女子差別語ばかり取り上げているが、男子差別語もあると思うので、女子はそうしたことにもやはり考えねば、ということも男女差別なしの本当の姿だと思う。
93	女性	60歳代	「和光市男女共同参画推進条例施行」そのものがよくわかりません。これからは気をつけて読んで見ていきたいと思います。
94	女性	60歳代	行政の中の共同参画はどうなっていますか？市民の立場としては、やる気のある良い感性をもった女性達が、昇進してほしいと思います。建設部は男性が多すぎると思います。まちづくりには女性の細やかな美しい感性が必要だと思います。人事担当の方、よろしく。
95	女性	60歳代	法律等、制度上では男女平等であって欲しいと思います。現在の社会には長い月日の習慣があり、生活上の平等はなかなか実現するのは困難と思われます。男女の意識というより、人間としての成熟度が問われるのではないのでしょうか。

	性別	年代	自由意見内容
96	女性	60 歳代	働くって楽しいですよ！面白いですよ！苦しいことも苦手なことも有るけれど専業主婦で居るよりずっと良いです。私もかつては有職婦人で、結婚退職が常識の社会に挑戦して後輩・同僚と共に頑張ってきましたが、出産のため（当時は保育所もなく、親も孫の育児はNOでした）泣く泣く退職しました。収入が減ったのに、親・義兄弟への仕送りは変わらず、子供の学費、看取り等、経済的に、肉体的にも苦しい時代がありました。まだまだ嫁の立場（特に総領の妻）は、介護、相続等弱い立場です。その上、最近は無職は悪とばかりに、税制の配慮も無くなりました。働きたくても職がありません。女性の敵は女・社会です。こういう立場の女性はまだまだ沢山居ますでしょう。私達の世代の女は働くことはいといません。有料・無料を問いませんでした。その結果が子を産みただ働きの家政婦だったのです。これを見てきた後輩達が職に走り、育児を好まず、介護を社会にゆだねるのは当然の成り行きです。…でもこれで良いのですか？一人ひとり能力が違うのです、100 円の大根は誰でも 100 円です、議員家庭も、保護家庭も、です。決して議員さんの家庭の大根が 10000 円になる事は無いのです。差額が富になるのです。その上消費税も一律ですよ。収入の多い人が少ない人をカバーする。働ける人が、出来ない人を助ける社会、そういう環境を整えば子供の数も増えることでしょう。男女共同だけでなく、全ての事に、社会が一丸になって助け合う、男も女も、老いも若きも、もてる力を出し合ってこんな社会になるように。
97	女性	60 歳代	考えが古いかもしれませんが、男女それぞれ、得意というか、出来ることが違うと思う。せっかく男と女として生まれてきたのですから。
98	女性	60 歳代	和光市民のよりよい生活の向上が出来ます事は大変良い事と思われま
99	女性	60 歳代	若いママさん達が安心して働くことが出来る様に、元気な老人達に留守を守って元気に生きがいを持っていただける様に、男女を問わず孫を育てる現代の子育て講座等、育児のための必要知識を教える場を作るべき（都内にはあります）。暇をもてあましている男性老人に、家庭生活上の必要知識を、講座をもうけて勉強してもらい、女性老人と同様協力して忙しく働いて欲しい。子育てと、仕事、家庭の両立は、女性にとって大変な事です。老人は遊んでいる場合ではありません。自分達の年金をささえる為にも皆で育児に協力すべきです。
100	男性	60 歳代	市の清掃日に小学生も参加して、大人と一緒に行動することが本当の意味の生きた教育だと思うので、是非実行する様望む。
101	男性	60 歳代	他力本願の支援にならぬ様に、またお役所のおせっかいとならない、自発的チーム作りでありたい。現代は男女という壁はなく、有るとすれば肉体的生理的特性の違いだけであると思う。
102	男性	60 歳代	当アンケートの対象としての選定基準に合わない。年金生活者（高齢者）には回答しにくい設問が多い。
103	男性	60 歳代	男性の子育て、自分が暴力をして子供 2 人育てている。男性の経済力なく、食事でもできぬまま子供を通学。給食のみが生きる糧。女性もそうだが、男性シングルファザーへの子育て支援、子育ての講座、体験の場がとても必要です。父親に食事をもらってない児童、生徒が和光市にはあります。暴力で育った子供のゆがんだ性格もたくさんみかけます。
104	男性	60 歳代	全体的に意見を聞くことも大切だが、市の積極的方針推進を強く希望する。
105	男性	60 歳代	市役所で市民に対して「お客さん」というのはおかしい。

	性別	年代	自由意見内容
106	女性	70歳代以上	国・県・市町村が全て同一の条例であって欲しい。
107	女性	70歳代以上	高齢者の場合、意見は持っても発表できない状況下にあるので、アンケートなどで意見を発表できるようにして下さったら良いと思う。
108	女性	70歳代以上	公的な場所で「おご～る」の立派な冊子を見るが、読む人もなく無駄ではないか。他の方法で親しみやすい啓蒙活動をした方がよいのではないか。
109	女性	70歳代以上	男女共同参画の企画は素晴らしいことと思います。もう少し若かったらと思います。これからのことについて児童の通学路がもう少し良くなるのではないでしょうか？狭い道幅にスピードを出すトラックにいつもハラハラして見えています。
110	女性	70歳代以上	今の人達と私達の人生は大分違うので何とも言いません。
111	女性	70歳代以上	このような「取組」がなくても、ここまで推進されてきたことに先ず驚いています。従って今後の男女共同参画に市の施策をすすめて行ければ、どんなにか発展するであろうと、半ば夢をみる思いでこのアンケートにお答えしました。男性のために取組を…などという世の名になりませんように。
112	男性	70歳代以上	和光市の男女共同参画の取組はあまり知られていない。自治会を通じて知らせて欲しい。
113	男性	70歳代以上	このような、男女共同参画条例がある事すら知りませんでした。
114	男性	70歳代以上	理論的ではなく、実践できるものを企画して欲しい。
115	男性	70歳代以上	広報わこうに男女共同参画の情報・活動等の紹介記事が掲載されることを希望する。
116	男性	70歳代以上	正直アンケートに対する回答はしたが、実際は男女共同参画そのものが良く理解していないまま回答したことについて申し訳ないと思います。
117	男性	70歳代以上	子供・孫は男女別学の高校に通っていたので、共学になってしまうことへの反対運動をしていた。
118	男性	70歳代以上	小学校・中学校の一部教師（特に女性）に見られるような、「君」と「さん」の区別はいけな、といった誤った方向には進んでもらいたくない。
119	男性	70歳代以上	これからの時代良いことだと思います。でも女性が外へでるようになると、ますます少子化になると思います。男と女は質が違います。おなじようにはいかないでしょう。私は男は外、女は中と思います。私は80歳。この間まで病院にいました。男と女の介護士さんとは接し方が全然違いました。男と女の役割は別々で良いと思います。男の介護士さんは事務的、女の介護士さんは優しさがありません。
120	男性	70歳代以上	男性老人には向かないアンケートです。
121	男性	70歳代以上	市としては男女共同参画は始まったばかりです。共同参加の機会を多く企画し、それを実行、実現することが、多くの市民全般に意義の向上をもたらすものと考えられます。（有効性のある広報が大事です）。
122	男性	70歳代以上	市からの市民への啓蒙がたりないのではないかと思います。
123	女性	無回答	すごく市民の意志を尊重してくれる様努力されているような気がしました。ありがとうございます。

	性別	年代	自由意見内容
124	無回答	50歳代	共同・平等という言葉程難しいものはないと思います。人それぞれ異なる価値観で生きています。何をもって共同・平等とするのか、市民の意識改革に向けて、言葉だけが独り歩きしないような施策を切に願っています。
125	無回答	50歳代	ただ形だけという印象。男女共同参画のためには、職場、家庭のあり方をどう変えるか、その役割は市町村にあるはずです。問25のような上から下へのサービスで、本当に職場や家庭が変わりますか？